



致し方がないとはいへ、学区民、同窓生の諸方々

連谷小学校閉校式典

二月七日、学区民、同窓生二百有余名の出席のもと閉校式典が厳粛に執り行われた。

穂積新城市長は核である小学校の閉校は地域の方々の断腸の決断とお察しする。跡地の問題等も今後の大きな課題として地域、行政共々考えていきたい。と挨拶された。

「連谷小学校の思い出」と題して開校から閉校までの時代の変遷をスライドに纏め、三名の在校生と先生がたの生の声で発表。素晴らしい演出に感動を与えた。式典最終に二百有余名全員で校歌斉唱が行われた。我々の年代には校歌はなかったものの、唱歌が二番、三番に進むにつれ、じつと眼がしらが熱くなり、あちこちでハンカチが揺れ動いた。やはり失せるものの悲しさか・・・

明治五年八月に学制発布、僅か二か月後の十月には身平橋白山神社を仮校舎として第二十八番身平橋学校開校以来百四十四年の輝かしい歴史と伝統を育くんできた我が母校「連谷小学校」も本年三月をもって閉校となる。時代の変化と共に

連谷小学校閉校記念式典



には誠に残念至極であり、感慨無量とお察しする。

平成二十六年六月、閉校記念事業実行委員会記念誌部会、事業部会、式典部会を発足、記念誌部会は校区の歴史年表、連谷地区紹介、ドローン撮影による上空から見た連谷地区、卒業写真などを織り込み、他に比類のない風土記風に纏めた。記念事業部会は記念事業として地域ぐるみの大運動会、学芸会、ふるさとウォーキング等々が僅か三名の在校生に地域住民二百人前後の参加をもって盛大に行われたことは、いかに、学校を大切に思う、その心「連谷魂」の現れと誰しも思う。また、式典部会は本日の式典と学校跡碑設立に邁進した。

開校以来千四百有余名の卒業生を送り出し幾多の人材を育くみ、世の中に送り出して頂いた歴代の諸先生がたをはじめ、何か事あるごとに本校を支えて下さったすべての皆様方に感謝と敬意を察する。

地域と共に歩んできた連谷小学校、ここで学び、友と過ごした我が母校の懐かしい思い出が同窓生の皆様方の心の中に生き続き後世まで語り繋がれることを願う。



## 新東名開通

二月十三日、新東名高速道路の豊田東JCT～浜松いなさJCTが開通。新城ICが開設される。

すでに東名高速道路三ヶ日ICを起点に三遠南信自動車道路が浜松いなさIC・鳳来挾IC間も開通し、遠州、奥三河、南信州周辺の道の駅、温泉、景勝地にアクセス効果がじわじわと表れている。

新東名新城IC開通に伴い、新東名で豊田市まで猿股やズロースを買いに行ってくるぞノックなんて夢のような時代がやってきた。



開通に先立ち中日新聞二月七日に「地域をつなぐアクセスより快適に」を表題に全紙で掲載された。コラムとして

### 新城市 地域の宝 心安らぐ千枚田

(鞍掛山麓千枚田保存会会長 小山舜二)  
鞍掛山の懐に抱かれた高低差二百坪の地に広がる「四谷の千枚田」では、室町時代以前から田んぼが作られていたといえます。減反政策により一時は耕作放棄地も拡大しましたが、地域の宝を残すべく保存会を発足。現在は四百二十枚の田んぼに作業道や東屋などが整備され、都市部から多くの方々が訪れるようになりました。四季折々の棚田の美しさは安らぎを与えてくれるでしょう。新東名の開通によりこれまで以上の来訪が期待されます。美しい景観に心癒されたら、棚田を守る農家の苦勞にも心を寄せて頂けると嬉しいですね。(原文のまま)

### 丸八製菓さん

四谷の千枚田は総面積が三、六畝一戸平均面積一・二アと非常に小規模で生産性は極端に低い。「湧水、天日干し、これ以上贅沢なコメは何処にあるだん」と言いながらも新米の販売はほとんどないに等しい。

「八雲だんご」で有名な丸八製菓の鈴木社長さんは四谷の千枚田を訪れ「大変な苦勞をかけ保存に邁

進している棚田のお百姓さんには頭が下がる。何とかお力になりたい。」と申し出があり、棚田の余剰米(古米)で五平餅を商品化。一昨年は「天晴れ四谷の千枚田五平餅」とポストカード十六枚セット、昨年は天晴れ四谷の千枚田の四季・同周遊図(写真・資料(舜))を箱入りで郵便局の宅配便季節限定販売。また、東京池袋西武百貨店や道の駅「もつくる」。そして十三日開通の長篠設楽原PAでも販売するなど、四谷の千枚田の継承、継続に大きな協力頂いている。



### 今後の予定

・二月十五日、三遠南信サミット  
東三河 豊橋芸術劇場ほか  
「道」分科会(舜)発言者として

・二月十六日、連谷老人会 研修旅行 三河温泉

・二月二十日、ほの国自然ソムリエ 学校閉校式 愛知大学  
(舜)講師として出席

### げなげな斬

#### 安閑さま

真菰の境場一番地、真田さんの裏山に第二十七代安閑天皇(在位五百三十一～五百三十六)を祭神とする金峯神社の社があり、社周辺は皇室所有地でもあることから信憑性は高い。安閑天皇は幼少の頃に真菰に住み、六十七歳で天皇に、在位三年、七十歳で崩御された。天皇は全国に屯倉(皇室の財産)を置くなどして内乱を防いだともある。

何にしても、天皇さまがこんなところに居たちゆうこたあ、どいらい事だのん。俺んとうのガキのじぶんにやあ「のん気な人」や「ぼおく」とした人を「あんかんさま」なんちゆって、からかつとったが、タブレットで調べたら、ほい、偉いお人だつただぞん。・・なんだん、あんたあ、タブレットなんかいじれるだかん、おどけたことだあ。・・

行 平成二十八年二月二十日  
鞍掛山麓千枚田保存会  
発 文 責 小山舜二